

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成19年度病害虫発生予察注意報第14号について
平成19年度病害虫発生予察注意報第14号を発表したので送付します。

平成19年度病害虫発生予察注意報第14号

平成20年 2月26日

宮 崎 県

- 病害虫名** タバココナジラミ類
(タバココナジラミ バイオタイプQ、シルバーリーフコナジラミ)
- 作物名** 冬春キュウリ
- 1 発生地域** 県下全域
- 2 発生時期** -
- 3 発生量** 多
- 4 注意報の根拠**

1) 2月中旬の巡回調査におけるタバココナジラミ類の発生面積率52.9% (平年25.0% 前年57.1%)、百葉虫数14.0頭 (平年4.1頭 前年9.4頭) はともに平年より多である。

(図1 , 2)

2) 本虫のうちバイオタイプQについては、現在問題となっているウイルス病「キュウリ退緑黄化病 (仮称) 」を媒介することが明らかになっており、今後、気温の上昇に伴い、保毒虫の施設外への拡散により、本病の拡大が懸念される。

また、本虫はメロンのメロン退緑黄化病 (仮称) 、トマトのトマト黄化葉巻病も媒介することから、メロン、トマト栽培地帯でも注意が必要である。

本年2月4日発表の特殊報第2号参照

3) 向こう3か月の天候予想でも、3月の気温は平年並または高い確率とともに40%となっており、本虫の増殖に好適な条件となることが予測される。

(平成20年2月25日 鹿児島地方気象台発表)

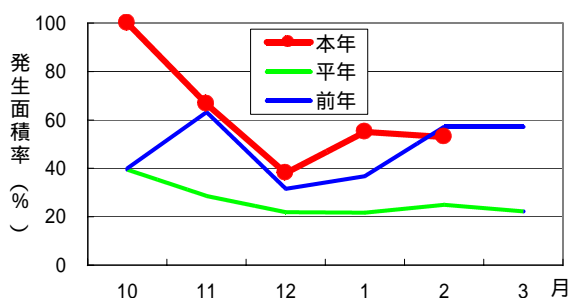


図1 発生面積率の推移

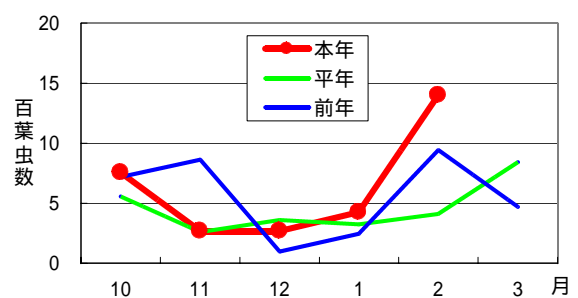


図2 百葉虫数の推移

5 防除上の注意

野外での生息が困難な低温期に、密度低下と施設外への拡散防止を図るため、以下の点に留意し、徹底した防除を心掛ける。

- 1) 県内では、各種薬剤に対して感受性の低いタバココナジラミ バイオタイプQが優占種となっていると考えられるため、有効な薬剤に対する抵抗性発達を回避する観点から、同一化学農薬の連用は避け、ローテーション散布を行う。また、抵抗性の発達しない昆虫寄生菌等の微生物農薬や気門封鎖型殺虫剤等を防除体系に組み込む。
- 2) ほ場周辺やほ場内の雑草は媒介昆虫の発生源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。
- 3) 改植等を行う場合は、残渣・雑草の処理、施設の蒸し込み等により施設内の本虫の処分対策を徹底する。(後作が本虫の影響を受ける他品目の場合も同様。)
- 4) 施設開口部への0.4mm目以下の防虫ネット設置、光反射マルチや近紫外線カットフィルム、黄色粘着板等の物理的防除手段も活用する。
- 5) ウイルス病媒介を防ぐ上でも、育苗期からの徹底防除を実施する。
- 6) 防除薬剤等その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会する。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病害虫防除・肥料検査センター 米良

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp